

平成23年度

# 考古学が語る古代オリエント

**Ancient Orient Revealed through Excavations in 2011**

第19回西アジア発掘調査報告会報告集

Proceedings of the 19th Annual Meeting of Excavations in West Asia



日本西アジア考古学会

**Japanese Society for West Asian Archaeology**

# 平成23年度 考古学が語る古代オリエント

Ancient Orient Revealed through Excavations in 2011

## 第19回 西アジア発掘調査報告会報告集 目次

第19回西アジア発掘調査報告会の開催にあたって .....2  
藤井 純夫

### <西アジア先史時代の調査>

南イランにホモ・サピエンスの足跡を探る—アルサンジャン・プロジェクト2011— .....8  
常木 晃・大沼 克彦・久田 健一郎・古里 節夫・中村 真衣子  
Investigation of the Modern Human Beings in South Iran: Arsanjan Project 2011  
TSUNEKI, Akira / OHNUMA, Katsuhiko / HISADA, Ken-ichiro / FURUSATO, Setsuo / NAKAMURA, Maiko

ユーフラテス河中流域の先史時代—第5次調査(2011)— .....16  
門脇 誠二・久米 正吾・下釜 和也・西秋 良宏  
Prehistory of the Middle Euphrates –The 2011 Season  
KADOWAKI, Seiji / KUME, Shogo / SHIMOGAMA, Kazuya / NISHIAKI, Yoshihiro

ヨルダン南部ジャフル盆地の遊牧化過程—ワディ・ナーディア1号遺跡、アウジャ1-3号遺跡の発掘調査(2011年夏)— .....22  
藤井 純夫・足立 拓朗・遠藤 仁・山藤 正敏・有松 唯・長屋 憲慶  
Process of Pastoral Nomadization in the Jafr Basin, Southern Jordan: Excavations at Wadi al-Nadiya 1 and 'Awja 1-3  
FUJII, Sumio / ADACHI, Takuro / ENDO, Hitoshi / YAMAFUJI, Masatoshi / ARIMATSU, Yui / NAGAYA, Kazuyoshi

シリア、ビシュリ山系の遊牧化過程—ファカット・ビデウイ1、2号遺跡の発掘調査(2011年春)— .....28  
藤井 純夫・足立 拓朗・山藤 正敏  
Pastoral Nomadization in the Bishri Mountains, Central Syria: Excavations at Fakat Bidewiy 1 and 2 (March-April, 2011)  
FUJII, Sumio / ADACHI, Takuro / YAMAFUJI, Masatoshi

初期定住集落の姿を探る—トルコ、ハッサンケイフ・ホユック2011年度の調査— .....34  
三宅 裕・前田 修・アブドゥセラーム・ウルチャム  
Excavations at Hasankeyf Höyük in Southeast Anatolia: The 2011 Season  
MIYAKE, Yutaka / MAEDA, Osamu / ULUÇAM, Abdüsselam

### <エジプトの調査>

王朝成立直前の社会を探る—エジプト、ヒエラコンポリス遺跡HK11C地区の発掘調査(2010-11年)— .....42  
馬場 匡浩  
Excavations at Locality HK11C, Hierakonpolis, Egypt: The 2010-11 Seasons  
BABA, Masahiro

蓋石取り上げ作業の概要—2011年度エジプト・クフ王第2の船復原プロジェクト— .....48  
柏木 裕之・吉村 作治  
Preliminary Report on the Lifting up of the Cover Stones: Investigation on the Khufu's Second Boat, Egypt in 2011 season  
KASHIWAGI, Hiroyuki / YOSHIMURA, Sakuji

### <特別報告>

シリア・パルミラ遺跡考古学事情2011 .....54  
西藤 清秀  
Some Archaeological Aspects at Palmyra, Syria 2011  
SAITO, Kiyohide

### <西アジア周辺地域の調査>

インダス文明の衰退を探る—インド・ミタータル遺跡の発掘調査2011— .....60  
上杉 彰紀  
Research on the Decline of the Indus Civilization: Excavation at Mitathal, India, 2011  
UESUGI, Akinori

第19回西アジア発掘調査報告会報告集  
Proceedings of the 19th Annual Meeting of Excavations in West Asia

CONTENTS

ブルガリア・前期青銅器時代開始期の集落—テル・チャドヴォ遺跡2010年・2011年調査— ……66

禿 仁志・千本 真生・柴田 徹・宮原 俊一

A Study of the Initial Period of a Bronze Age Settlement in Bulgaria: The 21st and the 22nd Excavation at Tell Dyadovo in the Upper Thracian Plain, 2010 and 2011

KAMURO, Hitoshi / SEMMOTO, Masao / SHIBATA, Toru / MIYAHARA, Shunichi

南コーカサス地方の新石器時代—ギョイテペ遺跡の第4次発掘調査（2011年）— ……72

西秋 良宏・ファルhad・キリエフ・門脇 誠二・下釜 和也・小高 敬寛・有松 唯・赤司 千恵

The Neolithisation of the Southern Caucasus: The 2011 Excavations at Göytepe, the Republic of Azerbaijan

NISHIAKI, Yoshihiro / GULIEV, Farhad / KADOWAKI, Seiji / SHIMOGAMA, Kazuya / ODAKA, Takahiro / ARIMATSU, Yui / AKASHI, Chie

カザフスタンにおける考古遺跡の地下探査—シルクロード世界遺産登録に向けた支援事業（2011年）— ……79

山内 和也・金田 明夫・西口 和彦・有村 誠

Geophysical Survey at Archaeological Sites in Kazakhstan: Support Project for the Silk Roads World Heritage Serial and Transnational Nomination 2011

YAMAUCHI, Kazuya / KANEDA, Akihiro / NISHIGUCHI, Kazuhiko / ARIMURA, Makoto

キルギス共和国チュウ河流域の考古調査、2011年 ……86

山内 和也・小澤 毅・津村 宏臣・相馬 秀廣・安倍 雅史・山藤 正敏・芝 康次郎・渡邊 俊祐・森本 達平・アリシェル・ベグマトフ

Archaeological Investigation in the Chuy Valley, Kyrgyz Republic, 2011

YAMAUCHI, Kazuya / OZAWA, Tsuyoshi / TSUMURA, Hiroomi / SOHMA, Hidehiro / ABE, Masashi / YAMAFUJI, Masatoshi / SHIBA, Kohjiro / WATANABE, Shunsuke / MORIMOTO, Tappei / BEGMATOV, Alisher

<西アジア歴史時代の調査>

ゲシュルとアラムの拠点都市—2011年エン・ゲヴ遺跡（イスラエル）発掘調査報告— ……94

杉本 智俊・岡田 真弓

Cities of Geshur and Aram: Preliminary Report of the Archaeological Excavations at Tel 'En Gev, Israel, 2011

SUGIMOTO, David T. / OKADA, Mayumi

新たなるアッシリア・コロニー時代交易都市の発見—トルコ共和国カイセリ県遺跡調査（KAYAP）第4次調査（2011年）— ……101

紺谷 亮一・須藤 寛史・早川 裕弐・山口 雄治・フィクリ・クラックオウル・クトウル・エムレ

The Another Trade Centre of Assyrian Colony Period: Archaeological Survey in Kayseri, Turkey (KAYAP), 4th Season, 2011

Kontani, Ryoichi / SUDO, Hiroshi / HAYAKAWA, Yuichi / YAMAGUCHI, Yuji / KULAKOĞLU, Fikri / Emre, Kutlu

オリエントにおけるグレコ・ローマン都市ガダラの考古学—ヨルダン、ウム・カイス／ガダラの第7次発掘調査（2011年）— ……107

松本 健

Archaeological Study of Greco-Roman City, Gadara: 7th Season of Excavation at Umm Qais/Gadara, Jordan, 2011

MATSUMOTO, Ken

オマーン湾港町ディバのデプス工房跡—アラブ首長国連邦ディバ遺跡第7次調査（2011年）— ……113

佐々木 達夫・佐々木 花江

Excavations at the Port Town in the Musandam Peninsula

SASAKI, Tatsuo / SASAKI, Hanae

※本書は2012（平成24）年3月24日～25日に開催された『平成23年度 考古学が語る古代オリエント—第19回西アジア発掘調査報告会—』（日本西アジア考古学会・古代オリエント博物館主催）の発表要旨集である。



# ユーフラテス河中流域の先史時代 —第5次調査（2011）—

## Prehistory of the Middle Euphrates –The 2011 Season

門脇 誠二  
KADOWAKI, Seiji

名古屋大学博物館助教  
Assistant Professor, Nagoya University Museum

久米 正吾  
KUME, Shogo

国士舘大学イラク古代文化研究所共同研究員  
Co-operative Research Fellow, The Institute for Cultural Studies of Ancient Iraq,  
Kokushikan University

下釜 和也  
SHIMOGAMA, Kazuya

古代オリエント博物館共同研究員  
Visiting Researcher, Ancient Orient Museum

西秋 良宏  
NISHIAKI, Yoshihiro

東京大学総合研究博物館教授  
Professor, The University Museum, The University of Tokyo

### 1. はじめに

これまで、ユーフラテス河中流域の先史時代の考古学的記述は、河川低地やそれに近い河岸段丘上に立地するテル型集落の調査成果によるものがほとんどであった。水源やそれに集まる動植物を利用した旧石器狩猟採集民のベースキャンプや、新石器時代の初期農耕村落、河川を交通手段として南メソポタミアとの文化・社会的つながりを色濃く示す銅石器時代や青銅器時代の拠点都市などの遺跡から、考古学・文献学上の重要な情報が数多く得られてきた。その一方で、テルのような大型遺跡だけでなく一定の地域を調査対象とし、徒歩による踏査を行い小規模な遺構や遺物散布地点も記録することによって、地域一帯における人間活動、つまり土地利用の解明を目指す調査が増加してきている。私たちの先史調査は、こうした最近の地域調査の目的と方法を採用して行われている。

ただしこの遺跡踏査は、考古学記録の空白地帯の開拓ではなく、より大きな総合プロジェクトの一環として行われ、初めからある程度の展望と目的をもってスタートした（図1）。関連した調査として、1）河川低地に立地する前期青銅器時代の拠点集落であるテル・ガーネム・アル＝アリ遺跡の発掘（代表：大沼克彦、国士舘大学教授）、2）ステップ台地奥部における中期青銅器時代ケルン墓群の発掘（代表：藤井純夫、金沢大学教授）、3）テル・ガーネム・アル＝アリ直近の河岸段丘上に位置する前期青銅器時代墓地の発掘（代表：沼本宏俊、国士舘大学教授）が伴っている。これら一連の調査は、ユーフラテス河中流域における青銅器時代社会を構成したさまざまな集団の同定とその相互関係の動態を解明することを目的としている（Al-Maqdissi and Ohnuma 2008, 2009, 2010, 2011）。

これらの発掘調査と連動させるために、筆者らの調査は、テル・ガーネム・アル＝

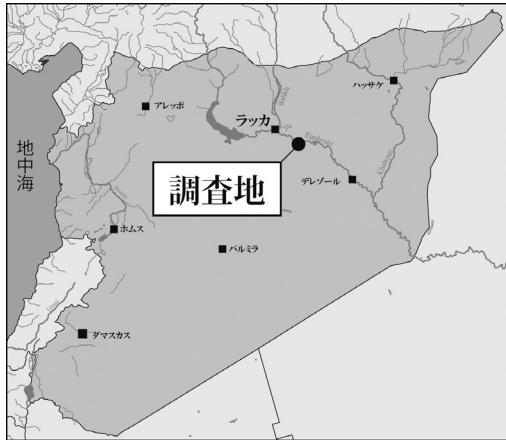


図1 調査地を示したシリア周辺の地図

アリ遺跡周辺の半径約10km圏で、ユーフラテス河南岸の河川低地とステップ台地を含む一帯を踏査範囲とした。これには、河岸段丘上の青銅器時代墓地の発掘地点（上記の3番の調査）も含まれる。

第一次調査を2008年に開始して以降、これまでの成果として大きく3つがあげられる。1つは、前期旧石器から中期青銅器時代までの遺跡をのべ350地点以上登録し、当該域における長期居住史の基礎データを獲得したことである。2つ目は、青銅器時代の遺跡としてこれまでに知られていたテル型集落と墓地に加えて、石器散布地点が当時の短期逗留地の遺跡であることを提示したことである（Nishiaki 2010）。そして3つ目は、青銅器時代の墓地の多くがテルの周辺に集中して分布する傾向があり、テルと墓地集中部がセットになる空間単位が調査範囲内に4つ（テル・ガーネム・アル＝アリ周辺、テル・ハマディーン周辺、テル・ムグラ・アツザギール周辺、テル・ジャズラ周辺）存在することを見つけたことである（図2）。特に最後の発見は、当該地における青銅器時代の社会集団の同定と集団間関係の考古学的解明を目指す本プロ

ジェクトの目的に直接かかわる。

## 2.第五次調査の目的と成果

これまでの成果を受け、本シーズンの調査は2つの目的を掲げた。1つは、青銅器時代墓地の時空間分布の精査である。特に、河川低地のテルの直近、ベイルーン地域のケルン墓、ジャズラ地区のテル周辺の墓地の3地点において、集中的な遺構探索と遺物採集、年代測定用標本の回収を行った。2つ目の目的は、これまで比較的充実した標本が得られている旧石器時代の居住史の精密化である。そのために、旧石器遺跡が集中しているワディ・ハラルにおいて、幾つかの遺物散布地点の試掘を行い、遺物包含層から石器標本や年代測定用標本を採取した。以下、その成果について述べる。

### (1) ユーフラテス河川低地 (32A～32B 地点)

先述したように、これまでの踏査ではステップ台地上において青銅器時代の墓地が濃密に分布する状況が確認され、その多くは河川低地に立地するテル（ガーネム・アル＝アリ、ハマディーン、ムグラ・アツザギール）の近隣に集中しているように見える。この分布パターンを見ると、テルの居住民が墓地の形成に関わったと思われるが、それと反対する意見が存在する。つまり、10ha程のテルに対して数kmの範囲に広がる墓地は規模が大きすぎ、その一部はテルから数kmも離れている。したがって、ステップ台地上の墓地はその場所で生活した遊牧民が残したものであり、テルの居住民はより直近に埋葬されたはずである、という見解である。その妥当性を部分的に確かめるため、テル直近の河川低地を踏査した。

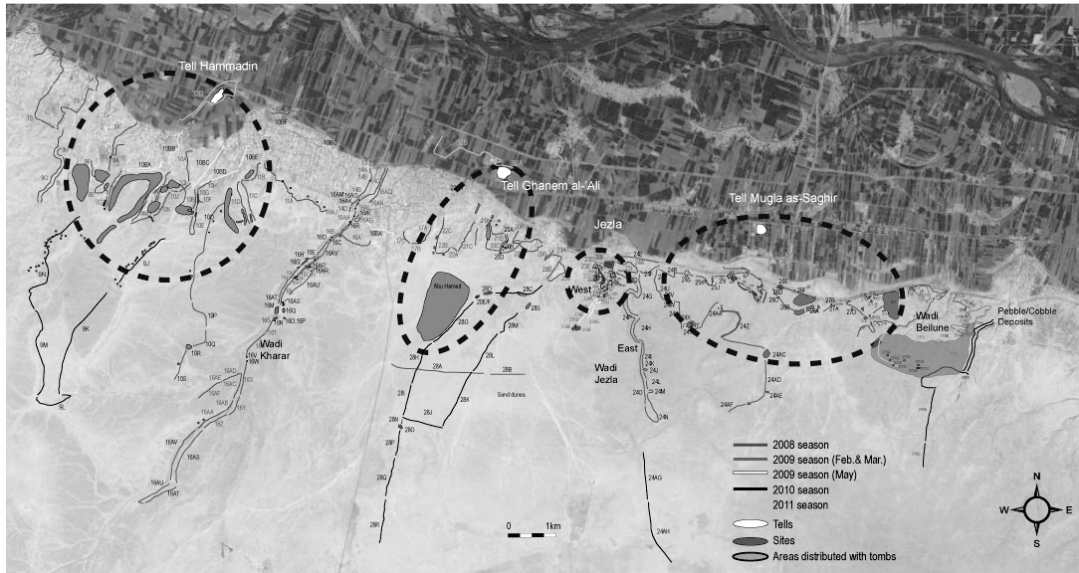


図2 青銅器時代の遺跡分布図

実線は調査年毎の踏査経路、破線の楕円はテルと周辺墓地のペアを示す

結果として、河川低地に墓地を発見することはできなかった。ただし、栽培植物や住宅地に覆われた河川低地で遺構を発見すること自体が困難である。しかも、河川堆積物によって青銅器時代の墓が埋没したり、灌漑路や貯水池、畑や住宅の造営によって墓が壊された可能性もある。

## (2) ベイルーン地区ケルン墓の再調査 (27C A~27C I 地点)

2009年の第二次調査において、調査地東端のワディ・ベイルーン中流域に広がる台地上に、ケルン墓群を発見した(Nishiaki et al. 2011a)。その一部を地図化した昨年の調査によると、1 km×500mの範囲内に375のケルン墓が分布することが分かった(西秋他 2011)。この特異な墓地の正確な範囲と年代を明らかにするために再調査を行った。特に、ワディ・ベイルーンの西岸に続くケルン墓群が、河川低地の青銅器時代遺跡テル・ムグラ・アッザギールの南に

集中する墓地(26A、26F、27F-M、Q-U、Y地点)と連続するのかどうかを確かめた。

結果として、ワディ・ベイルーン西岸のケルン墓群は、昨年に地図化した東岸よりも墓の密度が低いことが分かった(図3)。さらに、墓の密度は北西方向に減少し、ムグラ・アッザギール南の墓地とのあいだには墓の空白地帯が約200m存在する。

## (3) ジャズラ(23C A~23C G 地点)

ジャズラはステップ台地北端に位置し、矩形の城塞の存在で知られる地域である。城塞は前2世紀に建設され、その後も修復を伴いながら使用されたと報告されている(Napoli 2000)。この城塞の周辺に膨大な数の青銅器時代の墓が分布することが、シリア・日本合同調査隊によって既に報告されていたが(Al-Maqdissi and Ohnuma 2008)、2008年の筆者らの踏査によって、墓に加えてテルが確認され(テル・ジャズ



図3 ワディ・バイルーン西岸のケルン墓  
(東を望む)

ラ I : 23H 地点)、その周辺の地表でカナーン石刃や磨石、土器が採集された (Nishiaki et al. 2009)。採集された土器が中期青銅器時代の特徴を示すことが、当時ガーネム・アル＝アリを発掘していた木内智康氏によって指摘され、その後、テルの盗掘坑断面から採集した木炭のC14年代測定から前2千年紀前半 (中期青銅器時代) の較正年代値が得られた。

この結果を受け、テル・ジャズラ周辺の墓地も中期青銅器時代に属するのではないかと予測し、盗掘墓周辺に散布する土器の採集を行ったところ (23CA、23CB、23CE 地点)、中期青銅器時代の示準的土器が予測どおり採集されたのである (図4)。また、これまで見つかったテル・ジャズラ I のふもとに位置するワディ・ジャズラの対岸にもう1つ小型のテルが確認された (図5、テル・ジャズラ II; 23CG 地点)。その大きな攪乱部の断面には数メートルの灰層が露出し、土器や石器、骨、炭化物が含まれている。ここから採集した木炭のC14較正年代値も前2千年紀初頭を示すことが分かっている。

この結果は、テル周辺に集中する墓地がテルと同時期に属する傾向が、前期青銅器から中期青銅器時代にかけて継続したこと

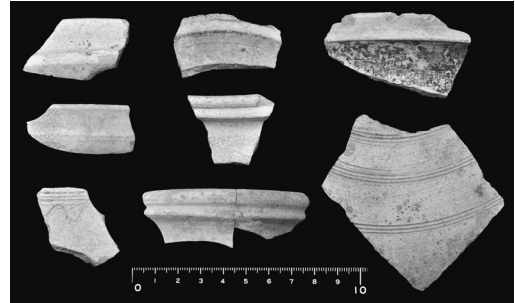


図4 テル・ジャズラ周辺の盗掘墓から採集した土器片 (中期青銅器時代)

を示唆する。しかし、このパターンに合わない例も存在する。それは、テル・ジャズラとその近隣墓地よりも南に位置する、さらにもう1つの墓地集中部である。この一帯から採集される土器は、ユーフラテス帯紋土器を示準とする前期青銅器時代の特徴を示すのである。この前期青銅器時代の墓地に対応したテル型集落は今のところ見つからない。テル・ジャズラあるいはジャズラ城の下層に埋没している可能性もある。

#### (4) ワディ・ハラール (16J、16K、16N、16R-1、16R-2、16AT' 地点)

ワディ・ハラールは、テル・ガーネム・アル＝アリとテル・ハマディーンのあいだに位置し、調査地のステップ台地北端を開折するワディのほとんどが数kmにとどまるのに対して全長20kmほどの規模を誇り、しかもその中流域に湧水地点が現存する。ワディ・ハラール沿いのテラスから数多くの石器散布・石器集中が2008年と2009年の調査で発見され、そのほとんどが旧石器時代に属する (Nishiaki et al. 2009; 2011a)。

今シーズンは、これまでに発見された石器集中部の中から6地点において、1m×1mを単位とした試掘坑を幾つか開け、旧





図5 ジャズラ城麓のテル・ジャズラ(23H地点)とII(23CG地点)。ワディ・ジャズラの対岸に位置する。

石器時代文化層の発見を目指した。その結果、16A T'地点と16K地点において、レヴァント地方の終末期旧石器時代中葉の技術伝統を色濃く示す細石器が採集された。その内、台形・長方形の細石器を特徴とする16A T'地点の幾何学ケバラン石器群はこれまでにパルミラ盆地やエル・コウム盆地からも報告されているが、16K地点に特徴的な不等辺三角形細石器はマイクロビュラン技法を用いて製作されており、南レヴァント地方のムシャビアン伝統に類似する。この同定が妥当ならば、この石器伝統はこれまでの想定を超える広範囲の乾燥地帯に流布していたことになる。

一方、16R-1と16R-2地点では遺物包含層が明確に検出され、石器と少量の骨、および木炭が回収された。この2地点の石器群は、剥片を石核に用いた細石刃製作を行う技術の特徴とし、それはレヴァント地方の編年では後期旧石器時代後半期に位置づけられる(図6)。16R-2地点から回収された木炭のC14年代値は、約33 kyaの非較正值を示した。この年代は、アフリカから拡散した初期現代人が前期アマリアンに加えてレヴァント地方オーリナシアンなど他の石器伝統を創出し、後期旧石器文化が多様化しはじめる時期に相当す



図6 後期旧石器時代の発掘資料(16R-1地点)

る。その舞台として内陸乾燥域が含まれていたようであるが、こうした文化変化と古環境変動との対応をさぐるのが今後の課題である。

この様に、ワディ・ハラールの旧石器時代資料は、旧石器文化伝統の時空分布パターンの基礎資料となり、初期現代人の乾燥地適応やネアンデルタール人との交替劇、またその要因としての文化進化パターンの研究に資することができると期待される。

### 3.まとめ

以上のように、今シーズンの調査目的は2つ、1) 青銅器時代の集落外墓地の時空分布をより明確化させることと、2) 旧石器時代遺跡の試掘を行い、石器標本の増加と年代測定用資料の採取を行うことであった。前節で述べた調査結果を、今後の展望と共に以下にまとめる。

- 1) ユーフラテス河川低地には、テルの近隣に青銅器時代の墓を検出することができなかった。ただし、埋没や破壊による影響の可能性を否定できない。
- 2) バイルーン地区のケルン墓群の分布は、テル・ムグラ・アッザギールに集中する墓地とは分布が連続しない。両

者のあいだには墓の空白地帯が数百m介在する。したがって、ベイルーンのケルン墓群は、テル周辺に集中する墓地とは空間分布を異にする可能性が高い。

- 3) ジャズラの台地北端には中期青銅器時代の小型テルが2つ存在し、その周辺には同時期の墓地が広がる。このテルと墓地の集中域の南部には、前期青銅器時代の墓地が存在し、対応する長期居住地が存在するか不明である。
- 4) ワディ・ハラールのテラスに数多く分布する石器集中地点の幾つかには、遺物包含層が伴っており、旧石器時代居住民の石器技術伝統と年代に関する資料がさらに得られる可能性がある。

これらの展望をさらに深く検証することによって、ユーフラテス河中流域における先史時代の居住史と土地利用の変遷、社会関係の考古学的解明に向けた研究を今後も進めていきたい。

#### 謝辞

今季の調査では、ダマスカス考古局のアハメッド・スルタン氏、ラッカ古物局のモハメッド・サルハン氏、アイード・アイサ氏、モハメッド・チェチェン氏、アイハム・アル・ファハレ氏の協力を得た。記して感謝申し上げます。調査は、文部科学省科学研究費補助金「新学術領域研究」2010-2014、ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相：学習能力の進化に基づく実証的研究（領域番号1201）などの支援によって行われた。

#### 引用文献とこの調査に関する文献（昨年掲載分に追加）

- Al-Maqdissi, M. and Ohnuma, K. (2008) Preliminary Reports of the Syria-Japan Archaeological Joint Research in the Region of ar-Raqqa, Syria, 2007. *Al-Rāfidān* 29: 117-193.
- Al-Maqdissi, M. and Ohnuma, K. (2009) Preliminary Reports of the Syria-Japan Archaeological Joint Research in the Region of ar-Raqqa, Syria, 2008. *Al-Rāfidān* 30: 135-225.
- Al-Maqdissi, M. and Ohnuma, K. (2010) Preliminary Reports of the Syria-Japan Archaeological Joint Research in the Region of ar-Raqqa, Syria, 2009. *Al-Rāfidān* 31: 97-207.
- Al-Maqdissi, M. and Ohnuma, K. (2011) Preliminary Reports of the Syria-Japan Archaeological Joint Research in the Region of ar-Raqqa, Syria, 2010. *Al-Rāfidān* 32: 119-209.
- 門脇誠二・近藤康久 (2011) 「石器製作伝統の消長パターンからさぐる旧石器人の学習行動」『日本考古学協会第77回総会 研究発表要旨』、164-165頁 日本考古学協会。
- 西秋良宏・門脇誠二・下釜和也 (2010) 「ユーフラテス河中流域の先史遺跡 —第四次踏査報告」『オリエント』53(2)：215頁。
- 西秋良宏・門脇誠二・仲田大人・下釜和也 (2011) 「ユーフラテス河中流域の青銅器時代—シリア、ビシュリ山系第4次調査 (2010)」『第18回西アジア発掘調査報告会報告集』、75-80頁 日本西アジア考古学会。
- Napoli, J. (2000) Les remparts de la forteresse de Djazla sur le moyen-Euphrate. *Syria* 77: 117-136.
- Nishiaki, Y. (2010) Early Bronze Age flint technology and flake scatters in the North Syrian steppe along the Middle Euphrates. *Levant* 42(2): 171-185.
- Nishiaki, Y., S. Kadowaki and S. Kume (2009) Archaeological survey around Tell Ghanem Al-‘Ali. *Al-Rāfidān* 30: 145-153, 160-163.
- Nishiaki, Y., Abe, M., Kadowaki, S., Kume, S., and H. Nakata (2011a) Archaeological Survey around Tell Ghanem al-‘Ali (II). *Al-Rāfidān* 32: 189-205.
- Nishiaki, Y., Kadowaki, S., Nakata, H., Shimogama, K., and Y. Hayakawa (2011b) Archaeological Survey around Tell Ghanem al-‘Ali (IV). *Al-Rāfidān* 32: 125-133.

第19回西アジア発掘調査報告会実行委員会

石田恵子（実行委員長）、足立拓朗、安倍雅史、門脇誠二、須藤寛史、  
田尾誠敏、津本英利、津村眞輝子、西本真一、三宅裕、宮下佐江子

---

---

## 平成23年度 考古学が語る古代オリエント

### 第19回西アジア発掘調査報告会報告集

---

発行日 2012年3月24日

発行 日本西アジア考古学会

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目1117

東海大学文学部歴史学科 考古学第3研究室（近藤研究室）内

TEL 0463-58-1211（内線3103） FAX 0463-50-2195

jswaa@hum.u-tokai.ac.jp <http://www.hum.u-tokai.ac.jp/~jswaa/>

制作 土師印刷工藝株式会社

---

---